

## 平成 29 年度第 7 回佐倉市行政評価懇話会 要録

日時	平成 29 年 12 月 27 日（水）9 時 30 分～11 時 37 分		場所	1 号館 6 階大会議室
出席者	懇話会委員：宇田川委員、小野委員、坂口委員、武藤委員（委員長）、目等委員（副委員長）、吉村委員			
	事務局	山辺企画政策部長、小川企画政策課長、上野主幹、緑川副主幹、藤崎副主幹、呉屋主査、橋主査		
	その他	傍聴 2 名		
内 容				
<p><b>◆委員長挨拶</b></p> <p>（委員長）7 月から始まった本会議も、佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証を 3 回、市民ワークショップを 2 回実施し、予定していた本年度の過程も折り返しに入ったところである。今回からは、本年度の懇話会の意見書を取りまとめる作業に取り掛かっていく。まずは、市民ワークショップを踏まえて佐倉市政に対する市民ニーズを聴取したので、懇話会委員が事前に提案していた施策に対する意見へのフィードバックする作業を行う。最後に、今年度の意見書を取りまとめる方向性を簡単に話し合いたいと考えている。</p> <p><b>◆議事</b></p> <p>（1）市民ワークショップの報告</p> <p>（委員長）それでは議案に入っていく。議案（1）市民ワークショップの報告に関する事務局から説明を求める。</p> <p>（事務局（呉屋企画政策課主査））【資料 1】市民ワークショップ報告書は、10 月 21 日（土）の第 5 回懇話会、11/18（土）の第 6 回懇話会で実施した市民ワークショップの報告である。参加者に配布済みである。各回のテーマに基づき、3 班体制でブレインストーミングを行い、付箋に記した個人の想いを模造紙にまとめた内容を反映したものを「個別意見」、各班の発表者の発言を「発表」とした。第 1 回市民ワークショップのテーマは「高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすために」、第 2 回市民ワークショップのテーマは「佐倉の魅力発信」である。それぞれのテーマに関し、事前に委員に選んでもらった施策が、「第 1、2 回市民ワークショップ 施策評価シート」にまとめてある。シートの各施策の末尾には、第 2 回から第 4 回の懇話会で委員から出た意見を大雑把にまとめて記載している。</p> <p>そこで、本日は、2 回の市民ワークショップを受けて、この各施策の意見に追加したいこと、市民ニーズを踏まえて修正したいことなどを指摘いただき、ブラッシュアップしていただきたい。</p> <p>本日ブラッシュアップした各施策の意見をもって、次の議案でも説明するが、次回会議に提出する意見書案に反映させていく予定である。</p> <p>（委員長）それでは、市民ワークショップを思い出しながら、こういった要素を改めて意見に加えたい、修正したいなどの意見があれば、自由に発言いただきたい。</p> <p>（坂口委員）日頃から、佐倉市はいい施策を実施し、いい施設、催しもあると感じているが、PR が下手である。また、今後一番問題となるのは、男性が退職したあと、地域に居所がないことであると思う。男性が集まってお茶を飲み、話ができるカフェ、食事会をやってはどうか。佐倉市にはコミセンなど、ふらっと立ち寄れる場所も多い。しかし、建物はあっても、運営するボランティアが必要。既にやっている人もいるが、もっとそのような人がやりやすいような環境づくりを進めてもらいたい。近くにできたコミセンで、カフェを月 1 回やっている方々がいるが、できれば 2 回やりたいたいと言っている。しかし、コップなど道具類を毎度持参し、毎度持ち帰ることが負担となっている。コミセンの</p>				

空きスペースを貸してあげることができれば、その負担が軽減される。このようにして、ボランティアがもっとやりやすいようにしてもらいたい。男性の居場所づくりは重要である。

(委員長) ワークショップの班ごとに整理した方がいいかと思うが、今の坂口委員の意見はどこに入れたらよいか。

(坂口委員) 1日目のA班、B班の発表の部分であれば、どこにでも入ると思う。

(委員長) 私の住む地域にもカフェがだいぶできてきたが、カフェでは、いろいろといいことを言う人も悪いことを言う人もいる。そこから噂が流れていくということが指摘されている。また、行く人は常連となることが多く、普通の民家の一角をカフェにするならよいが、公的にやるのは難しく面もある。社協、地区社協などがそのような場所づくりをするとよいと思うが、佐倉ではやっているのか。

(宇田川委員) 最近福祉部でやっている「わくわく体操」という取組みがある。健康状態に不安のある人が、これをやることにより、仲間づくりができる。きっかけは市の「わくわく体操」であるが、それにより地域に入っていくことに波及する。公的な機関はきっかけづくりをすべき。

(坂口委員) 民間がやるためにも、道筋は行政が付けるべき。日本の社会は変革期にある。サラリーマンの比率は、60年前は50%であったが、今は90%程度まで増えている。この層が定年を迎え、大量にまちに出て行くこととなる。この人たちにいかに生きがいを持って生きてもらうか、また、労働力となってもらうかが重要。時代は大きな転機を迎えており、佐倉だけでも「こういうことをやっている」ということができればよい。何かやってみることが必要。

(委員長) 店舗を活用する例はある。定年後の男性をターゲットとした居場所づくりを検討する余地はあると思う。また、高齢者だけでなく若者の居場所づくりも必要。京成佐倉にはヤンプラなどがあるが、十分かどうかは分からない。

(目等委員) 社協の東部地区主催で、年に6~7回「茶話会」を開催しているが申込制で会場もその都度変えているので、メンバーも変わっていると聞いている。100円会費で午前中いっぱいお茶を飲みながら談話をされている。また、毎週土曜日10時から、本町会館で高齢者対象の体操教室が開催され30名程度が参加している、元学校の体育教師だった方がお年寄りにもできる体操を進めている。本町は、4町会で連合会組織しており経費の一部を負担している。身近な事例の一つである。

(委員長) 11ページに、「佐倉市におけるパトロールカー、警察官の数が少ないのではないか」という意見が記載されているが、事実としてはどうか。

(事務局(小川企画政策課長)) 直接県警に確認したわけではないが、警察官の配置は人口などに比例して行われていると思うので、意見にあるようなことはないと思うが、エリア毎の配置に偏りがあるように感じ、そのようなイメージを持たれることはあるかも知れない。

(宇田川委員) 教員、警察官、消防士の数が多いか少ないかは、我々の意見の範疇を超えているのではないか。警察官については、何かあると多い方がいいとは思いますが、何もなければやることなくってしまう。一方、教員については、人数が少ないと残業が多くなり病気になってしまったりもする。適切な人数がどの程度必要かの議論はできるかも知れないが、我々が多い、少ないという立場にはない。

(事務局(山辺企画政策部長)) 毎日、成田市内、空港の真下を通って通勤しているが、ここ 10 数年来、なぜこんなにパトカー、機動隊の車が多いのかという印象。特殊性もあるだろうが、非常に多く感じる。感じ方は様々であり、佐倉の数が少ないということはないと思う。

(宇田川委員) 千葉県には警察署が 39 ある。法律で決まった警察協議会で決められた内容で運営されているので適切だとは思いますが、佐倉警察署は 1 市 2 町を管轄しているため、もう少し警察官を増やしてもいいと思うこともある。

(目等委員) 先日、駅前交番連絡協議会の中で、千葉県の交通事故数はかなり減少しているが、佐倉警察管内では事故件数で、県内 4 位で 6,400 件を超えていると聞いている。警察官が対応できないと言うことか伺ったが、コメントをもらえなかった。重点的に警備しなければならない地域差などの課題もあるようだ。

(事務局(呉屋企画政策課主査)) 発表に選ばれた方が、全ての班員の意見を網羅した形で発表しているわけではないため、事務局でこれをまとめる際に、偏っていると思われる意見については掲載していない。この意見については、実感としてはありうるということで残してある。「地域によってはパトカーの数、警察官の数が少ないように感じることもある。」と修正することとする。

(委員長) 「○」や「×」、「☆」の記号が付されているが、どういう意味か。

(事務局(呉屋企画政策課主査)) ワークショップでは、佐倉のいいところは青、課題は赤、その他は黄色の付箋を使ってもらった。「○」は青、「×」は赤、「△」は黄色にそれぞれ対応している。「★」は、班の発表で重点とされていたり、事務局の方で重要な意見と捉えたりしたものに付した。

(委員長) 7 ページに「防災無線がよく聞こえない」という意見に「★」が付されている。防災無線を全地域に整備し、改善したりしているのではなかったか。

(事務局(呉屋企画政策課主査)) 平成 30 年以降、業際無線のデジタル化を 2 年かけて整備するので今後は聞こえやすくなると思われる。

(委員長) 意見に対する市の対応をどのように書くかは、最終的な報告書の中では重要である。言い訳ばかりになってはいけない。

(吉村委員) 私は 2 回目のワークショップの C 班に参加した。参加者の中に、4 人のお子さんをお持ちの男性がおり、発表もとてもうまかった。なかなか子育て中の方には声掛けをしてもなかなか参加してもらえないと思っていたが、いい意見をもらった。あのような方にいかに参加してもらうかが重要である。その方から、22 ページにあるとおり、草ぶえの丘、サンセットヒルズについて、もう少し企業的な目線でのサービスの向上があると、若いファミリー世代に「行って楽しかった」と思ってもらえるのではないかという意見があった。施策評価シートにも、そのような目線が必要ということ、意見として入れるとよいのではないか。また、佐倉の給食や佐倉学はすばらしいが、それだけでは定住には結びつかない。メンバーの中に孫育てしている方がいたが、その方から、秋田県では子供たちの基礎学力が高いという話があり、佐倉でも、佐倉学にプラスして、高い学力を売りにすることなどが必要ではないかという意見があった。「基礎学力の向上」も意見として入れられないか。また、「西の長崎、東の佐倉」という言葉を、私も聞いて育ったので、佐倉に郷土資料館など、歴史を学べるところがあるとよいと思う。

(委員長) 草ぶえの丘は直営か。

(事務局 (山辺企画政策部長)) 今年度から直営である。

(事務局 (小川企画政策課長)) 直営なので、逆に言えば市の特色は出しやすい。

(小野委員) 小学生は佐倉学を習っているので佐倉のことをよく知っているが、大学進学以降は県外に出てしまい、そのまま市外で就職、結婚する。佐倉はいいところだが、都内までが遠いので、そのようにして転出してしまう。佐倉に大学を誘致するとともに、就職先までここにあれば、佐倉のいいところを知った子が佐倉に住み続けてもらえる。交通の便もよく、都市部に近く、「ほどほどよい佐倉市」の良さを伝えようという意見があったが、それでは「ほどほどの」年齢の人ばかり来て高齢化が進んでしまう。草ぶえの丘、サンセットヒルズは、知っている人だけが利用しているが、知らない人にうまくアピールできる手段があるとよい。「モノサク写真展」を佐倉で開催してはどうかという意見や、どこでも乗り入れできる切符を作ってはどうかという意見がワークショップで出ていたが、具体性があり、すぐにもできるのではないかと思った。いすみ鉄道のPRはすごく、普段乗らない人も菜の花の写真の撮りに行く。これはPRをしているからこそである。「モノサク」については、地元にながら知らなかった。PR不足を何とかすべきである。

(坂口委員) シティプロモーションについては、市の外への発信だけではなく、市内への発信も必要。パンフレットなど、洗練されたやり方で取り組んでいるようであるが、プロジェクトチームを立ち上げるべきである。また、市民以外の方には、お金のかからない、ITを使った広報が効果的である。

(小野委員) 市に頼ることなく、できることもある。

(事務局 (小川企画政策課長)) 企画政策課に、シティプロモーション担当が2名いる。今年度、予算を持ち、シティプロモーションの戦略を作成しており、できれば来年以降、組織的にも拡充していきたいと考えている。

(坂口委員) シティプロモーションについては、ターゲットを明確にするなど、はっきりとした考え方を持って取り組んでほしい。

(委員長) 一歩進めてもらいたいということ、どこかに意見として書いてはどうか。

(坂口委員) フィルムコミッションなど、佐倉は早く手を着けるが、形ばかりで、その先がすんなりといかない。そこそこ行政に陥らないようにしてもらいたい。

(小野委員) B級グルメの佐倉井も、「そこそこ」どころか沈静化してしまった。あのイベントを毎年続けていくと定着すると思うが、なぜ一回きりで終わらせたのか不思議である。結局何も残らない。

(委員長) 四日市の大学の先生でB級グルメに力を入れている知人がいるが、去年お台場でイベントを開催した際、雨が降ったため、50万人の参加を見込んでいたにもかかわらず5万人しか人が来ず、大赤字となったという話を聞いた。このため、地方で中規模のものを続けていくという方針転換をしたとのことである。

(坂口委員) 食の魅力は大きい。

(目等委員) いろいろな意見が出ているが、具体的に実現化するためにどうすればよいか、もう一歩

踏み込んでほしい。城がたくさんあるので地図を作ってはどうかという意見があり、市役所では文化課が所管課と思うが、所管課の所見も踏まえた意見書を作りたい。ワークショップでは、息子二人が東京で就職し、佐倉のことをよく思っているが、戻って住もうとは思っておらず、このような人を呼び戻す方法として、佐倉から東京に通う特急券を補助してはどうかという意見があった。費用負担がかさむので難しいと思うが、提示されたものに対し、役所としてどう考えるかというところまで踏み込んでほしい。

(事務局(呉屋企画政策課主査))ワークショップの意見については、本日の意見を踏まえ修正し、参加者に配る。また、評価シートの資料として添付する。本日の会議上でなくてもよいので、他にも意見あれば言ってほしい。

(宇田川委員):シティプロモーションについて、佐倉市の場合は、課題は多いにもかかわらず、企画政策課に担当が二人というのは少ない。やっつけられるのか。

(事務局(山辺企画政策部長))現在、人事と組織強化の協議をしている。どうなるかは分からないが。

(坂口委員):シティプロモーションは庁内横断的に取り組むべきである。

(事務局(山辺企画政策部長))少子化担当、文化課、産業振興課、健康こども部などとも連携し、横断的には既に実施している。これからも、今まで以上に、組織強化とともに、進めていく必要があることは認識している。

(2)今年度意見書の方向性への意見交換

(委員長)次に、議題2に移るが、事務局から説明があるとのことであるのでお願いします。

(事務局(緑川企画政策課副主幹))佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗管理シートの達成率について、以前の懇話会において、目標値が110万人、実績が120万人であれば、達成率は $\text{実績値} \div \text{目標値} \times 100$ として109%にすべきではないかとの指摘があった。このことについて、事務局において検討した。ご指摘のとおり、初期値が100万人、目標値が110万人のところ、120万人の実績の達成率を200%と表示することは分かりづらいと考えている。しかし、一律に $\text{実績値} \div \text{初期値} \times 100$ で計算した場合、観光入込客数の達成率に当てはめると、27年度は初期値を下回ったにもかかわらず81.8%、28年度は初期値と同じであるにもかかわらず90.9%の達成率となってしまう。このため、事務局案としては、現在のまま、 $(\text{実績} - \text{初期値}) \div (\text{目標値} - \text{初期値}) \times 100$ で計算することを提案する。ただし、初期値を下回った場合は「初期値を下回った」、目標値を上回った場合は「目標達成」と表記して誤解を招かないようにする。

(委員長)確かに120万人で200%というのはおかしい。%換算表記を辞めるのか。

(事務局(緑川企画政策課副主幹))100%を超えた場合には「達成」とする。

(委員長)102万人の場合にはどうなるか。

(事務局(緑川企画政策課副主幹))20%となる。

(坂口委員)よく分からない。目標値に対して実績値の達成率出すのが普通の考え方ではないか。初期値はあくまで目標値を立てるために参考とする数値である。このような方法は一般的なのか。

(事務局 (緑川企画政策課副主幹)) 他市の状況を見ると、達成率を使っているところはあまりなく、数値の伸び等でやるところが多い。

(委員長) 目標を 100 と考えると、「達成」という表記はなかなかよい。300、400 となるのも変だと思う。

(事務局 (小川企画政策課長)) 110 万人にするため、5 年間で 10 万人増やすのが目標なのか、ということであり、毎年度 2 万ずつ増やすことが各年度の目標となる。このため、2 万人増えただけで 90% 達成というのはおかしい。

(目等委員) : 数字で示すところという議論になるので、「達成」という表記で良いと思う。

(吉村委員) 目標値を超えるまでは数字標記があった方が良いと思う。

(委員長) 事務局案でよいか。

(目等委員) 「%」を書く欄に、初期の数値に上積みをしたものを達成率としている、という添書きがあるとよい。

(事務局 (山辺企画政策部長)) 28 年度、29 年度が達成していないながら数値が入っている。28 年度にしてみれば、初期値と同じ、「未達」に置き換えてしまうことも含めた意見かと思う。

(目等委員) : 「達成」か「達成していない」でよいのではないか。

(坂口委員) : 事務局案のとおりとするにしても、誤解のないよう説明が必要。

(事務局 (小川企画政策課長)) 進捗シートの中には、KPI の設定の根拠の欄があるので、その辺りに注意書きとして示すこととする。

(委員長) それでは、さきほどの達成率の考え方で施策評価シートを修正するよう、意見書の資料とするよう事務局に調整をお願いします。それでは意見書のとりまとめの方向性について、引き続き、事務局に説明を求める。

(事務局 (呉屋企画政策課主査)) こちらの議事では、今年度の意見書をどのような方向性でまとめていくか、ご意見を頂戴したい。今年度は大変多くの施策について効果測定をしていただいております、第 4 次総合計画後期基本計画に位置付けられた重要施策 29 本のうち、昨年度に効果を測定した 8 本を除いた 21 本を効果測定の対象とした。今年度評価いただいた施策については、【資料 2】「平成 29 年度懇話会意見付帯の評価シート一覧」をご覧ください。このうち、市民ワークショップで議論の対象となりました施策と懇話会委員のご意見は、本日お持ちいただいた【資料 5 と 6】「各市民ワークショップ 施策評価シート」にまとめている。そして、市民ワークショップの対象には選ばれなかった施策は、【資料 4】「市民ワークショップ対象外 施策評価シート」としてまとめている。こちらは実際に効果検証の際に利用した評価シートの末尾に、委員さんの意見を付したものになっている。こちらの委員さん意見については、意見書案への反映を意識して、市民ワークショップ時の評価シートよりも意見をかなり集約したものとなっている。

先ほども説明したとおり、今年度は評価対象が大変多いため、すべての施策に対して同じ濃度で意見書にまとめることは難しいと考えている。そこで、事務局としては、市民ワークショップの 2 つのテーマを重点的にして意見書案をまとめ、委員の意見と市民から多く寄せられた意見をまとめること

もに、それ以外の施策に対する意見は総合的な意見として集約したいと考えている。このことに対し、こういった方向でまとめてはどうか、あるいは、この施策のこの意見は必ず加えるようになど、委員からの意見を頂戴したいと考えている。よろしく願います。

(委員長) ただいま、事務局からの意見書案の方向性について提案があったが、何か意見はあるか。

(目等委員) 資料4の17ページ、「懇話会意見等」のミレニアムセンター佐倉に関する意見については、私が言おうとしたことが表現し切れていない。「ミレセン」は愛称であるにもかかわらず、本来の名称である「コミセン」と言う表現を使ってポスターを作った団体が、「どこのことか分からない」と言われてしまったという話がある。私が意見したのは、このような混乱が生じない改善が必要という趣旨である。

(事務局(小川企画政策課長)) 施設全体の総称としては「ミレセン」であり、「コミセン」はその機能一つである。志津にできた「志津市民プラザ」は、志津公民館も包括支援センターなどで構成される複合施設であるが、総体として「志津市民プラザ」と呼んでいる。「ミレセン」もこれと同様である。

(目等委員) 分かりづらいので工夫をお願いしたい。コミュニティセンターの中にミレニアムセンターがあると思っている人も結構いると思われる。また、そのように書いている資料もあったように記憶しているので確認してほしい。料金設定の表か何か。この愛称は募集したのか。

(事務局(上野企画政策課主幹)) 公募した。

(坂口委員) ここ数年で佐倉を取り巻く状況は大きく変わっている。大きなものとしては日本遺産の認定。もらったパンフレットには3泊4日コースなどが紹介されていた。佐倉には文化遺産があるが、PRが行き届いていない。これをきっかけにしたいという雰囲気が出ていると思うが、佐倉がリーダーシップをとり、DMO作ってもっと積極的に取り組むべきである。日本遺産北総四都市江戸紀行活用協議会の事務局は千葉市中央区にある。

(事務局(山辺企画政策部長)) 実質的には県が事業運営している。

(坂口委員) 刀剣美術館などもある佐倉に事務局を、という意気込みが必要。もう一つはスポーツ。スポーツをいかに地方創生に結び付けるか。地方創生フォーラムで鈴木大地スポーツ庁長官の話を聞いた。スポーツツーリズム、スポーツビジネスの市場規模は現在5.5兆円。これを2022年には15兆円へと張り切っている。佐倉はいいことをしているが、長嶋球場など、野球の聖地佐倉というイメージをもっと植え付けるべき。また、宮崎県の河野元知事の話聞いた。宮崎県の青島太平洋マラソンの参加者は12,400人であり、佐倉朝日健康マラソンとほぼ同じ人数であるが、経済効果は6億1,300万円と伺った。佐倉は同じ規模の人数を集めておきながら、経済効果はそこまでではないのか。もっとイベントを佐倉の活性化のために使うべき。「歴史、自然、文化のまち」に、「スポーツ」も入れるべきである。

(宇田川委員) 11ページ、空き家の問題は深刻である。空き家対策は地域コミュニティの課題でもあり、庁内横断的な取り組みを更に進めていくべきと強く訴えていきたい。福祉部にとっても重要であるし、自治会レベルで考えても大変重要。

(委員長) 所有権不明の空き家への対応においては、知事が権限行使することになると伺っているが、市町村長が行使できないといけないのではないかと思う。知事では決めきれないのではないか。

(宇田川委員) もっと地元で権限を下ろすべきである。

(坂口委員) : 空き家の割合の全国平均は 13%である。空き家バンクなど対策に手を着けており、実績も挙げているが、佐倉も変わらない。

(事務局(山辺企画政策部長)) 登録値に対する実績は高いが、登録自体が伸びない。実績としては 30%を超えているのではないか。

(小野委員) 5、6 ページの雇用拡大の部分で、セブンイレブンの高齢者積極雇用についての意見が記載されているが、今年初め頃は、シニア世代がレジに立っている気がしたが、最近は見かけない。継続して仕事をしているか疑問。最初の数カ月だけ雇ったということではないのか疑問である。

(坂口委員) コンビニは、クリーニングや自転車のシェアなど、今後ますます期待できる存在である。

(小野委員) 買い物難民にとっても、歩いて日用品を買いに行ける一番近い場所はコンビニであることが多い。高齢者積極雇用の取組みはずっと続けてもらいたいが、最近見かけないので発言した。

(事務局(呉屋企画政策課主査)) コンビニが主体になって始めた事業に産業振興課が乗った事業と聞いている。追跡調査が可能かは分からないが、産業振興課としても高齢者の積極的雇用を進めていく方針であると聞いている。

(委員長) 牛井の店やマクドナルドも高齢者を採用するというニュースがあった。サービス業の中では比較的、高齢者は働きやすい場所だと思う。

(事務所(山辺企画政策部長)) コンビニのレジは多機能であり、映画のチケットの発券作業などもある。大変な仕事のように思われる。

(坂口委員) ミニストップなど、地域貢献もしている。イオンは千葉に本社があるので、こちらから働きかけるなら話が付きやすいかも知れない。

(委員長) ますます高齢化が進んでいるので、高齢者の働き場を増やすことは重要。

(宇田川委員) 20 ページ、デマンド交通はすごくいいと思ったが、難点があり、利用者のニーズに応えられていなかった。コミュニティバスについては、その反省を活かして運営してほしい。懇話会としても意見したい。

(坂口委員) コミュニティバスについては、1月31日にテープカットが行われる立地適正化制度の創設によりコンパクトシティ化が推し進められることになる。ポイントは交通であり交通手段がしっかり整備されていないと、弱者切り捨てになってしまう。

(目等委員) 第5回目の懇話会資料の4ページに、「自治会の加入率の減少とともに、役員の成り手がいないことも問題の一つです。その原因は、行政改革の名のもとに、本来行政がやるべきことを自治会にやらせてきたことが考えられます。」という記述があるが、「やらせてきた」という表現は良くない。「民間の力を借りてきた」ということである。

(宇田川委員) 役員のなり手がいないのは、社協も同様であるが、住民のためのことをやっていることが、十分周知徹底されていないことが原因の一つ。



(目等委員) 集金が一番大変である。敬老会の案内状を持ち歩いて回る時だけ感謝される。小さいことであるが、このとき顔を見ることができるといい。

(坂口委員) 買い物券の 1,000 円は無駄という発言をしたが、それを聞くと必要性がないわけではない気がしてくる。

(宇田川委員) 安否確認等も兼ねている。また、町会の班長が負担と感じているかどうかも重要。全体の費用を見て、大局的に考えることも必要。敬老会に来られるのは比較的健康的な高齢者である。来ないのは、参加したくてもできない人か、全く関心のない人。個人的には地域振興券は必要ないと考えているが、その使用先は市内であり、市内商業の活性化を考えると効果はある。

(目等委員) 介護される人を減らすためには、健康的な高齢者でいてもらうことで、単に地域振興券を配るのでなく、健康維持に関連することに税金を使うべきという意見があった。

(坂口委員) 老衰で亡くなる人が多い都市は、健康に関する支出が少ないという朝日新聞の記事がある。

(委員長) 国保の広域化により、県が国保行政により関わるようになる。

(事務局 (小川企画政策課長)) 意見書に、進捗管理シートを資料として付ける際、それに担当課の見解を記入すると申し上げたが、本来、懇話会の意見が出された後に、それに対する担当課が見解を示すものである。あくまで中間意見への見解ということでよいか。

(坂口委員) それでよい。

(委員長) それでは、懇話会の意見を踏まえて調整し、次回、報告書案を提出していただきたい。

(事務局 (小川企画政策課長)) 本日の要録についてはなるべく早く作成し、確認をお願いしたい。次回、第 8 回会議は 2 月 2 日 (金) 9 時 30 分からを予定している。場所は市役所 3 階会議室である。議題は事務局が本年度の意見書 (案) を提出し、委員に意見をいただいてブラッシュアップしていきたいと考えている。引き続きご協力をお願いする。

(11 時 37 分 終了)